

参加申込要領

● お申し込み方法

WEBにてお申し込みを受付けます。『PMシンポジウム2008』のご案内ページをご参照ください。

<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2008/main.html>

● 参加申込み期限

8月22日(金)〔早期割引申込み期限7月31日(木)〕

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお薦めいたします。

● お支払い方法

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付データをお送りいたします。
早期割引適用の方は8月4日(月)までに、それ以外の方は8月22日(金)までに下記の口座にお振込みください。
また、お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通 0737079
名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局

E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-3539-3022 FAX.03-3539-1741

● 参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	9月4日(木)		9月5日(金)				
	シンポジウム		懇親会	セミナー・ワークショップ			
	7/31まで(早期割引)	8/1以降(通常申込)	通常申込みのみ	7/31まで(早期割引)	8/1以降(通常申込)		
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	5,000円	8,000円 (半日講座)	16,000円 (1日講座)	9,000円 (半日講座)	18,000円 (1日講座)
PMAJ法人正会員および ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	10,000円	11,000円	5,000円	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)	12,000円 (半日講座)	24,000円 (1日講座)
一般参加者	13,000円	14,000円	5,000円	14,000円 (半日講座)	28,000円 (1日講座)	15,000円 (半日講座)	30,000円 (1日講座)
学 生	3,000円		5,000円	10,000円 (半日講座)	20,000円 (1日講座)	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)

ENAA ((財)エンジニアリング振興協会)

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術の向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など200社が会員となっています。

PMAJ (NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合されて2005年11月に発足した協会です。

P2M資格試験や講習会・PMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

PMシンポジウム

2008 9月4日(木)・5日(金)
タワーホール船堀
江戸川区総合区民ホール

Project Management Symposium Japan 2008

基調講演1

「JAXAにおけるプロジェクトマネジメント」
宇宙航空研究開発機構 技術参与 工学博士 向井 利典

基調講演2

「働きがいを生むスポンサーシップ」
株式会社スコラ・コンサルト 代表 柴田 昌治

プロジェクトマネジメントが拓く 明日への変革

～ 総合力と人間力を磨く～

注目企画

- ① 明日への変革に向けて (P2Mの視点)
- ② 総合力と人間力 (PMを推進する力)
- ③ 参加型シンポジウム

主 催：財団法人エンジニアリング振興協会 (ENAA)

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)

後 援：経済産業省

協 賛：社団法人情報サービス産業協会、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

PMシンポジウム2008 開催のご案内

わが国では、20世紀の成長を支えてきた団塊世代から新たな世代への移行期にあたるともに、グローバル化に伴う国際競争の激化、地球規模での環境問題・エネルギー問題等の従来の経験則では対応できない課題に直面しています。

今回のシンポジウムでは、こうした様々な課題に取組み、明日への変革へと切り拓いていくための体系の一つとしてプロジェクトマネジメントを位置付けます。この視点から、プロジェクトマネジメントに期待するところ、果たすべき役割は何かを考えます。

明日への変革に向けて (P2Mの視点)

明日への変革を切り拓く活動として、プロセスのマネジメントに留まらない、事業概念から発する使命の達成を目標とする価値創造事業(イノベーション)に照準を当て、イノベーションとプログラム & プロジェクトマネジメントをテーマとしたイノベーショントラックを新設します。

総合力と人間力 (PMを推進する力)

変革をもたらすプロジェクトを推進するのは、組織としての総合力を発揮させるプロジェクトマネジメントとともに、メンバー一人一人の人間力です。組織の「総合力」を磨き、その構成要素でもあるメンバーの「人間力」を磨くということについて考えます。

参加型シンポジウム

CFP(公募に基づく講演)も引き続き実施します。優れた応募作が多く定着して来ましたが、またセミナー/ワークショップでの頭と手を動かしての能動的な関わりにもご期待ください。

- ITトラック
- P2Mトラック
- エンジ・建設・公共トラック
- イノベーショントラック
- 製造・サービストラック
- 金融トラック
- PM人材育成トラック



各種ポイントの認定対象となる

PMシンポジウム2008

■ CPU ■ PDU ■ PM教育受講証明 ■ 知識ポイント

■ CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(半日講座) : 5ポイント
- 2日目(1日講座) : 11ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

■ PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目 : 7PDU
- 2日目(半日講座) : 3PDU
- 2日目(1日講座) : 6PDU



PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(初日・2日目を分割するとエラーになります。)また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■ 知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛(後援)により4時間当たり1ポイント相当(上限なし)の「知識ポイント」が付与されます。

1日目 午前

基調講演 1

9月4日 10:00~

JAXAにおけるプロジェクトマネジメント



宇宙航空研究開発機構 技術参与(統括チーフエンジニア) 工学博士 向井 利典

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の使命は、宇宙科学、地球観測、通信測位、国際宇宙ステーションによる有人宇宙活動および宇宙環境利用の促進、宇宙輸送、更には航空も含めて、よいミッションを創り、それを成功に導くこと、また、それらを通じて我が国の宇宙航空技術を持続的に発展させることにある。宇宙開発には、大規模で複雑、長期に亘る、一発勝負、地上では経験しえない極限環境などの特徴がある。2005年10月に新たに設置されたチーフエンジニア・オフィスでは、その使命を果たすべく中長期的な視点で開発業務の改革に取り組んできた。

この取り組みでは、まず、開発業務の核となるシステムズエンジニアリングとプロジェクトマネジメントの改善に焦点が絞られ、具体的な計画が実行されてきたが、課題を解決して前述の使命を真に果たすためには、これらのみならず、経営層を含めた意思決定のメカニズム、戦略的な研究、知識の継承、人材の育成などの所謂技術経営(マネジメント)とそれらを効果的に実施するための組織構造が有機的な関連をもって必要となる。

本講演では、これらの改善に関する基本的な考え方と施策を述べ、併せて、まもなく軌道上での本格運用が開始される国際宇宙ステーションにおける日本実験モジュール(JEM)や宇宙科学などの成果のハイライトを紹介する。

【講師略歴】1968年、京都大学大学院工学研究科修士課程修了後、東京大学宇宙航空研究所に入所、その後、文部省宇宙科学研究所にて太陽系プラズマ研究系助教、教授、同研究系主幹。2003年10月、宇宙3機関の統合により、宇宙航空研究開発機構(JAXA)・宇宙科学研究本部宇宙プラズマ研究系主幹。約40年にわたり、宇宙科学の分野でプラズマ観測装置の開発を担当し、これまで、日本のすべての磁気圏観測衛星およびハレー探査機に搭載されたプラズマ粒子観測の主任研究者を務めるとともに、関連する科学衛星プロジェクトにおけるマネジメントに従事した。また、ESAとの国際共同水星探査計画の立上げに指導的役割を果たした。2005年10月よりJAXA技術参与(統括チーフエンジニア)。工学博士。

基調講演 2

9月4日 11:05~

働きがいを生むスポンサーシップ

株式会社スコラ・コンサルト 代表 柴田 昌治



人の自発性を大事にする「スポンサーシップ」が機能している組織では、社員を信頼し主役にしようと努力するトップのもとで、社員はいきいきと自分たちで考えて仕事をしている。会社や上司がそうしろと言うからそうしているわけではなく、社員が自分たちの意志と動機にもとづいて考え、動いている。企業が変化に対応して進化を続けていくためには、●つねに問題を見えるようにして解決していくことが「損」にならない風土、●社員が主体的であることに価値を置いて支援するマネジメント、●社員の「考える力」と「チーム力」が育つような話し合いの場、が不可欠だ。では、どのようにしてそれを実現していけばいいのか。

ここでは、1.何が社員に閉塞感をもたらしているのか 2.問題解決のサイクルを回す 3.当事者になるために、という3つのテーマで、「スポンサーシップ」の実践について紹介していく。

【何が社員に閉塞感をもたらしているのか】 つねに問題を発見して解決することをよしとしている組織か。問題に対して「対応策」ばかりを持ち込んでいないか。風土・体質にみる剛構造の組織、柔構造の組織。考える力を引き出すマネジメント、押しつぶすマネジメント。

【問題解決のサイクルを回す】 対応力の源は「考える力」と「チーム力」。「会社のため」ではなく「自分のため」に。「経営に対する信頼感」と「仲間に対する信頼感」をつくる。「気楽にまじめな話をする場」で深い議論をする。

【当事者になるために】 当事者と評論家の違い。リーダーシップからスポンサーシップへ。部下を当事者にする「スポンサーシップ」とは、「対話」が当事者に必要な考える力を鍛える。

【講師略歴】株式会社スコラ・コンサルト代表。1979年東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。大学院在学中にドイツ語学院を始め、30代の頃はNHKテレビ語学番組の講師を務める。ビジネス教育の会社を設立後、80年代後半から企業風土・体質改革のコンサルティングに取り組む。変化を妨げている価値観を変えながら変革のプロセスをつくり込んでいく「プロセスデザイン」というやり方が特徴。社員が主体的に人と協力し合っていきたいと動く会社をめざし、社員を主役にする「スポンサーシップ経営」を提唱、支援している。著書書:「なぜ会社は変わらないのか」「トヨタ最強の経営(共著)」「会社を変える人の「味方」のつくり方」「なぜ社員はやる気をなくしているのか」「柴田昌治の変革する哲学」(いずれも日本経済新聞出版社)ほか

シンポジウムプログラム

SIg : 特定テーマ研究会 (Specific Interest Group)

CfP : 公募講演 (Call for Presentation)

ワークショップ : 参加型講座

P2M : 研修事業第1部会

PMF : 研修事業第2部会

※両日とも会場はPMAJホームページにてご確認ください。(8月中旬掲載予定)

9月4日(木) ・2F 平安「カフェ・ド・eシンポ」… “参加者交流の場” “展示コーナー” “ドリンクサービス”

午前		午後							夕方
5F 大ホール・小ホール (定員750名・300名)		ITトラック	P2Mトラック	エンジ・建設・公共トラック	イノベーショントラック	製造・サービストラック	金融トラック	PM人材育成トラック	2F 瑞雲
09:15	開場、受付開始	[IT-1] システム開発における品質マネジメントの改善 プロセスQA手法を用いた品質マネジメントの改善 横山 和彦(日立システムアンドサービス)	[PA-1] P2Mに関わる問題構造化へのシステムズアプローチ 梅田 富雄(青山学院大学 総合研究所)	[EG-1] 柔らかな仕掛けが街を救う 公共空間活用による中心市街地活性化 北原 理雄(千葉大学大学院)	[IV-1] プロジェクトマネジメントとナレッジマネジメント融合を目指して 梅本 勝博(北陸先端科学技術大学院大学)	[MS-1] PM実践力養成法プロジェクト事例研修の進化への取り組み 木野 高史(富士通) CfP	[FI-1] イノベーションを具現化するプロジェクトマネジメントソニー銀行らしさの追求 河原塚 徹(ソニー銀行)	[PS-1] プロジェクト営業の七つの誤解 プロジェクト営業の問題点とその対策 長尾 清一(PMコンセプト)	懇親会 「プロジェクトマネジメントを肴とした語らいの場」では、講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。
09:45 ┆ 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」								
10:00 ┆ 10:50	基調講演 1 JAXAにおけるプロジェクトマネジメント 宇宙航空研究開発機構 向井 利典	[IT-2] 慢性的工数不足のソフトウェア開発プロジェクトの立て直し 仮説検証によるメトリクスを使った短期改善手法 川崎 雅弘(バソニックアドバンステクノロジー) CfP	[PA-2] 沖縄IT業界の課題とP2M研究会活動 地域PM人材の育成を目指して 林 秀雄、屋比久 友秀(沖縄P2M研究会)	[EG-2] 地下鉄副都心線建設プロジェクトを振り返って 新技術の活用とコスト縮減方策 西村 高明(東京地下鉄)	[IV-2] 成功事例、反省事例に学ぶプロジェクトマネジメント 弓取 修二(新エネルギー・産業技術総合開発機構)	[MS-2] フリーランスデザインオフィスGKとヤマハ発動機におけるPM 感性とダイナミズムに基づいたデザインプロジェクト事例 一条 厚(GKダイナミックス)	[FI-2] 金融機関におけるシステムリスク管理とプロジェクトマネジメント 池田 宜睦(金融庁 監督局)	[PS-2] 「ストレスフリー指向開発」 品質確保とストレス軽減の両立 栗田 太郎(フェリカネットワークス)	
11:05 ┆ 11:55	基調講演 2 働きがいを生むスポンサーシップ 株式会社スコーラ・コンサルト 柴田 昌治	[IT-3] ソフトウェア開発へのなぜなぜ5回の適用 真の原因を求めて 榊 恵理子(TIS)	[PA-3] IT基盤サービス品質を確保するための効果的なプロジェクトマネジメント 恩地 政市(ユニアデックス) CfP	[EG-3] 建設事業プログラムの“見える化”を支援する目標管理型予算の統合管理ツールの開発 本間 克三(シーム) CfP	[IV-3] デジタル技術が製造業の技術マネージメントを変える 薄型デジタルテレビの事例 山口 南海夫(日本ビクター)	[MS-3] 中小企業における独自商品の事業開発におけるPM事例 PMアプローチで新規事業を市場展開 小泉 誠二(フュージョンナレッジネットワーク)	[FI-3] 金融システムに関わる、PMOの設置と品質管理活動のポイント 大石 晃裕(日立製作所)	[PS-3] PM型MOT(技術経営)実践事例 ～新事業を創出するMOT人材育成～ 松本 毅(アイさぼーと) CfP	
		[IT-4] トラブルを防ぐITプロジェクトの契約マネジメント 大谷 和子(日本総合研究所)	[PA-4] NASAの有人宇宙開発マネージメントのすばらしさ 長谷川 義幸(宇宙航空研究開発機構) 武内 信雄(宇宙研究開発機構) CfP	[EG-4] 中国大型EPCランプサム案件、その成功と失敗から学んだこと Win-Winを目指す 越川 昌治(東洋エンジニアリング)	[IV-4] リスクマネジメントと組織学習によりプロジェクトを成功に導く 失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント 河合 一夫(ニルソフトウェア) CfP	[MS-4] 災害復旧システムプロジェクト 設計から構築・運用の作業プロセス 百瀬 敏彦(アトスオリジン)	[PS-4] 狩猟型プロジェクトマネージャーを育成する 心理学的視点とリーダー育成 伊藤 健太郎(アイシンク)		

※小ホールは映像による中継となります。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

9月5日(金) セミナー・ワークショップ全19プログラム開催 ～PM基礎講座からPM実践・PM人材育成・IT関連セミナー/ワークショップ～

午前(10:00~12:30)		午後(13:45~16:15)	
A	[A1] P2M標準プログラムマネジメントとPMI®標準プログラムマネジメントとの相違と実用的な使い方 渡辺 貞成(経営組織研究所) P2M	[A2] PMBOK® ガイド第3版概説 PMBOK® ガイド第3版によるプロジェクトマネジメントの知識体系の解説 小林 守(PMAJ研修第2部会) PMF	
B	[B1] 感性コミュニケーション入門 潜在脳理解による組織力アップ講座 黒川 伊保子(感性リサーチ)	[B2] 職業としてのプロジェクト プロジェクト・マネージャーの要件、プロジェクトに向く人、向かない人 中嶋 秀隆(プラネット)	
C	[C1] 実践的プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクトマネジメント組織成熟度向上のためのPMO 仲村 薫(アルテミスインターナショナル)	[C2] 『生産WBS』による個別設計生産のマネジメント革新 SCMからEPMへのパラダイムシフト 林 謙三(テクノレッジ・ジャパン)	
D	[D1] ITプロジェクトのなぜなぜ5回(階) 成功のために組織の支援を得る5つの階層 小原 由紀夫(FFC) SIg	[D2] 元気の素を測り、分析から行う効果的なチームビルディング モチベーションの構造化モデル(PS調査)とプロジェクト診断 PS研究会・松尾谷 徹(法政大)、宮下 圭一(株)富士通ASOL)、 松田 浩一(富士通(株))、石田 善幸(株)CIJ) ワークショップ	
E	[E1] 巧みなビジネス・プレゼンテーションのコツを学ぶ ステークホルダーは、いかなる話に耳を傾け、心を傾けてくれるのか 村松 かすみ(モアグレイス)	[E2] 「人を育てる」ことは嫌いですか? ～部下や後輩を育成し、自分の仕事を向上させる～ 田中 淳子(グローバルナレッジネットワーク)	
F	[F1] ポートフォリオマネジメント実践法 IT投資価値の最大化をどう実現? 中谷 英雄(ピーエム・アライメント)	[F2] 現場力を高めるプロジェクトマネジメント 経営力を高める現場力の強化 好川 哲人(プロジェクトマネジメントオフィス) 渡辺 貞成(経営組織研究所)	

午前(10:00~12:30)		午後(13:45~16:15)	
G	[G1] なぜ、失敗から学べないのか? 『成長する組織』をつくるには 落合 敏明(ティオス) CfP	[G2] 現場力のプロジェクトマネジメント 日本組織の現場力を活かしたプロジェクトマネジメントの在り方を考える 浦 正樹(マイクロソフト)	
H	[H1] 海外プロジェクトのRisk Management 見積段階・遂行段階のリスク管理 大益 康市(日揮)	[H2] ITプロジェクトにおけるリスク管理の勘どころ EVMを始めとして発注者の為のパフォーマンス・リスク管理を中心に 村田 正憲(村田経営研究所)	

1日セミナー			
K	[K] コンフリクト・マネジメント 多様化する職場での協調的問題解決 鈴木 有香(オikos) ワークショップ	[K]・[L]・[M] は1日ワークショップです。 スケジュールは次のとおりとします。 ■午前 10:00~12:30 ■昼食 12:30~13:30 ■午後 13:30~16:15	
L	[L] 「ふりかえり」によるITプロジェクトカイゼンワークショップ ふりかえりと見える化の関連 天野 勝(永和システムマネジメント) ワークショップ		
M	[M] 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション ダイバーシティとコミュニケーション 松本 潤二(松本屋) ワークショップ		

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。


IT-1 システム開発における品質マネジメントの改善 9/4 13:10 プロセスQA手法を用いた品質マネジメントの改善

株式会社日立システムアンドサービス 品質保証部
技師 横山 和彦

【セッション概要】 システム開発では、開発プロセスやマネジメントプロセスでの問題により、プロジェクトに混乱を起すことが多い。当社のプロジェクトでも様々な要因によるプロジェクトの混乱から、下流工程での問題発覚や本番後にシステム障害が発生するケースがあった。それら混乱ケースの要因を分析し、問題が多いマネジメントエリアと開発工程との相関関係を紐解き、全工程に影響を及ぼしていた品質マネジメントの改善を行った。本セッションでは、当社における品質マネジメント手法の改善例とその効果について紹介する。

【講演者略歴】 1986年コンピュータシステムエンジニアリング(株)入社。ソフトウェア品質保証業務に従事。1999年日立西部ソフトウェア(現株式会社日立システムアンドサービス)入社。損保・産業系個別受注システムの品質保証業務に従事。PMP®

IT-2 慢性的工数不足のソフトウェア開発プロジェクトの立て直し 9/4 14:15 仮説検証によるメトリクスを使った短期改善手法

パナソニック アドバンステクノロジー(株) エンジニアリングセンター
チームリーダー 川崎 雅弘 

【セッション概要】 大規模組み込みソフトウェア開発の一部を担当するソフトウェア開発プロジェクトの立て直し事例を紹介する。テスト工程に入り、予定以上に発生したバグ対応に追われていた。バグが多い根本原因を明らかにするため、まずはメトリクスを使った仮説検証による改善手法により、短期間で改善を行い、バグ対応の効率化を図った。これにより、手直しから予防への転換を実現し、目標を達成した。加えて、現場の改善意識を生んだ。

【講演者略歴】 1991年入社。AV機器などの組み込み系のソフト開発に携わる。複数のプロジェクトのプロジェクトリーダーを担当。その後、CMMをベースとし社内全体のプロセス改善活動を推進。現在、エンジニアリングセンター プロセス革新チーム チームリーダー。PMAJ認定PMS

IT-3 ソフトウェア開発へのなぜなぜ5回の適用 9/4 15:35 真の原因を求めて

TIS株式会社 カード第1事業部部付
榊 恵理子

【セッション概要】 原因がわかれば手を打てる。しかし、システム開発プロジェクトの現場では、真の原因がわかっていないにも関わらず、対策を打っているケースがしばしば見受けられる。そこで、「なぜなぜ5回」を適用し、真の原因に近づくことができた。その経緯および方法を報告する。
1. 「なぜなぜ5回」の有効性の検証
●より説得力がある解決策を立てられる ●問題への対策に漏れが発生しない
2. 分析を成功させるための原理原則
「よい分析結果」を導くためにどのような点に考慮すればよいかを、ノウハウとしてまとめた。

【講演者略歴】 1987年TIS株式会社(旧社名東洋情報システム)入社。数年間、通信系システム開発を担当。生産技術部に異動後、約10年間、開発標準/PM標準策定およびPM育成などPJマネジメント関連テーマを担当。5年前から事業部系部付スタッフとして、PJ管理支援、事業部施策推進などを担当。

IT-4 トラブルを防ぐITプロジェクトの契約マネジメント 9/4 16:40

株式会社日本総合研究所
法務部長 大谷 和子

【セッション概要】 情報システムの信頼性確保の観点から、モデル取引・契約の策定などIT取引可視化の試みが続いている。工程単位でのリスクアセスメントを可能とする多段階契約、工程の特性に応じた契約形態の選択、当事者の役割分担の取り決め、知的財産権の帰属など契約マネジメントの勘所に関するモデル取引・契約の考え方を紹介する。また、これらの考え方を踏まえ、ユーザ、ベンダともに取り組むべき課題を検討する。加えて、近年のIT関連裁判例に即してトラブル解決の糸口となる契約マネジメントの在り方を提言する。

【講演者略歴】 1996年より株式会社日本総合研究所法務部長(現職)。法とコンピュータ学会理事。総務省情報通信審議会委員。知的財産戦略本部専門調査会委員。経済産業省「情報システムの信頼性向上のために取引慣行・契約に関する研究会」委員。社団法人情報サービス産業協会契約部会長。

PA-1 P2Mに関わる問題構造化へのシステムズアプローチ 9/4 13:10

青山学院大学 総合研究所
客員研究員 梅田 富雄

【セッション概要】 プログラムマネジメントに関連して、経営戦略に合致した統合的なプロジェクト計画・遂行に対する伝統的なシステムズアプローチを可能にするために、複数のサブ問題を含む問題構成から適切な課題設定にいたる問題構造化が必要である。ここでは、プロジェクトマネジメントとシステムエンジニアリングについて概観し、主としてエンジニアリング業務に焦点を当て、問題の構造化について、プロファイリングの結果をプロジェクトの目的と制約条件に結びつけ、システムズアプローチを可能にする方法について述べる。

【講演者略歴】 1958年東工大化工卒、千代田化工入社、プロセス技術部長、エンジニアリング本部副本部長、技監などを歴任、1989年退職、同年筑波大学社会学系教授、1995年千葉工大工業経営学科、PM学科教授、社会システム学部長を経て2003年定年退職。2002年度PMP学会長。現在青学大客員研究員。

PA-2 沖縄IT業界の課題とP2M研究会活動 9/4 14:15 地域PM人材の育成を目指して

沖縄P2M研究会
林 秀雄、屋比久 友秀

【セッション概要】 平成20年4月、沖縄においてPMS合格者を中心とするP2M研究会が発足した。研究会活動を通じてP2M理解を深め、「①プロジェクトマネージャー能力の向上を図る、②プロジェクトマネージャー間のネットワーク形成を通じてビジネスへの波及を図る、③プロジェクトマネージャーとしての主体的な行動トレーニングの場を提供する」ことを目的として研究会は運営されている。沖縄におけるIT業界の現状と課題の報告と同時に、同県におけるITビジネス振興を産学で図るためのプロジェクトマネージャー育成の活動を紹介する。

【講演者略歴】 ■林 秀雄：1971年早稲田大学理工学部卒業。日本ユニバック(現日本ユニシス)入社。金融機関のシステム開発・SEサービスに長年従事。1983年MBA取得。2004年(株)国際システム社長。■屋比久 友秀：1998年東京理科大学理学部物理専攻修士。同年(株)OCC入社。現在、OCC新技術支援部部長。


PA-3 IT基盤サービス品質を確保するための効果的な 9/4 15:35 プロジェクトマネージメント

ユニアデックス株式会社 サービス事業グループ
NSB統括部インフラデザイン室 室長 恩地 政市

【セッション概要】 ITサービスをコアビジネスとする弊社にとって、サービス品質を確保することは大きな課題である。ITのライフサイクルは、ユーザ要件に見合った機器の論理設計、構築、保守運用とITビジネスによって変化する。ROI改善において、ITライフサイクルの約7割を占める、保守運用の品質をいかに高めるかが重要である。ITを導入する企業の価値を高めるために、弊社の役割としてインフラ基盤の設計・構築段階より、しっかりしたプロジェクトマネージメントを行う必要がある。事例を通してその実際をお伝えする。

【講演者略歴】 1976年 日本ユニバック株式会社(後に日本ユニシス株式会社)入社。サービス事業に従事。96年 キャリア部門のシステムエンジニアを経て、2005年 ユニアデックス株式会社へ転籍。現在に至る。

PA-4 NASAの有人宇宙開発マネージメントのすばらしさ 9/4 16:40

宇宙航空研究開発機構 プログラムマネージャ 長谷川 義幸
宇宙研究開発機構 部長 武内 信雄 

【セッション概要】 国際宇宙ステーションは米国、ロシア等世界15カ国が分担開発し、宇宙で組立て、宇宙実験を行う国際プロジェクトである。日本は実験施設「きぼう」を開発し、日本から運用し利用を推進している。世界の参加機関をとりまとめるNASAのマネージャは、優れたエンジニアで理解が早く、思考が論理的で、物事を前向きにとらえ、ストレス耐性が優れている。人望があり、先見性がある。本報告では、NASAと国際交渉をしながら学んだNASAのPMの運営の仕方に焦点をあて、リーダーシップ等を紹介する。

【講演者略歴】 ■長谷川 義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より国際宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。現在プログラムマネージャ。■武内 信雄：1980年宇宙開発事業団入社。1990年より日本実験棟開発に従事。2008年より、安全性・信頼性推進部長。

EG-1 柔らかい仕掛けが街を救う 9/4 13:10 公共空間活用による中心市街地活性化

千葉大学大学院 工学研究科
教授 北原 理雄

【セッション概要】 全国各地で中心市街地の衰退が問題化して久しいが、有効な成果をあげている対策は殆どない。主に道路やハコモノ施設などのハード施策と販売促進などのソフト施策が実施されているが、プロジェクトでの有機的連携が不足し、活性化の切り札になり得ていない。

千葉大学大学院工学研究科、北原研究室では、過去10年に亘り、パラソルやテントなど「柔らかい仕掛け」で街に賑わいを創出し、ハード事業とソフト事業を橋渡しする試みに取り組んできた。この実証実績に基づき、プロセス構築型の「活性化プロジェクト」の可能性を探る。

【講演者略歴】 東京大学大学院修了(工学博士)。名古屋大学助手、三重大学助教授を経て、1990年から現職。市民・行政と協力して、千葉市中心市街地活性化、市川市行徳地区まちづくり、東京湾三番瀬再生などに取り組む。共著書に『公共空間の活用と賑わいまちづくり』(学芸出版社)他。


EG-2 地下鉄副都心線建設プロジェクトを振り返って 9/4 14:15 新技術の活用とコスト縮減方策

東京地下鉄株式会社 鉄道本部 改良建設部
次長 西村 高明

【セッション概要】 東京圏における鉄道網は、旧運輸大臣諮問機関である運輸政策審議会答申に基づき、各鉄道事業者が鉄道ネットワークを形成してきている。ここでは、東京地下鉄(株)が施工した答申路線地下高速鉄道13号線(通称「副都心線」)について、建設工事着手から開業に至るまでを振り返り、建設時に採用した新技術やコスト縮減方策を紹介するとともに、「人と環境にやさしい地下鉄建設」をモットーに取り組んだ環境マネジメントシステム14001に関する各施策、その他トピック的な事例を報告するものである。

【講演者略歴】 1980年帝都高速度交通営団入団。主に建設本部で、地下鉄建設の設計・施工管理に従事。その間、1987~89年、旧運輸省に出向し鉄道交通網答申に携わる。また1995~98年、鉄道総合技術研究所に出向し、トンネル設計標準を策定。2008年4月改良建設部に在籍し、現在に至る。

EG-3 建設事業プログラムの"見える化"を支援する 9/4 15:35 目標管理型予算の統合管理ツールの開発

株式会社 シーム
代表取締役 本間 克三 

【セッション概要】 国や地方で実施される公共事業プロジェクトの予算は、無駄のない行政経営を公開するために、完成日と予算額を宣言し、進捗状況を公表する「目標管理型予算」に移行している。これまで行政は、このような予算管理の行政能力(PM能力)を重視してきた訳ではないため、予算の可視化、進捗状況管理、年度毎事業費を統合管理するPM能力向上が急務となってきた。講演では、行政20年、コンサル15年の経験から、中長期の公共事業やプラント事業を複数実施している発注者のPM能力向上を目指して開発したPMツールを紹介する。

【講演者略歴】 1971~1991年建設省勤務、本省、局、事務所、出張所、公団で道路事業に従事。その後建設コンサルタント会社で道路事業の業務委託。2002年那覇在任、沖縄PM研究会代表として、行政のPM業務やPMセミナーを実施、2007年に公共事業現場のPM能力向上をめざして株式会社シーム設立。

EG-4 中国大型EPCランプサム案件、その成功と失敗から学んだこと 9/4 16:40 Win-Winを目指す

東洋エンジニアリング株式会社 海外第一プロジェクト本部
PD 越川 昌治

【セッション概要】 経済成長を続ける中国市場は、プラントメーカーにとっても大きなマーケットといえる。一方、市場の閉鎖性、特殊性から、プラントメーカーにとって、中国市場は決して安易なマーケットではない。筆者がPMとして担当した、中国大型EPCランプサムプロジェクトの、成功体験と失敗から学んだ、それらの要因を分析。本講演では、客先とWin-Winの関係を構築し、プロジェクトを成功に導くのに必要な戦略と手法、そしてPMの役割などをまとめて紹介する。

【講演者略歴】 1980年東洋エンジニアリング(株)入社、工事部、配管設計部を経て、1987年より海外プロジェクト本部に異動、現在に至る。PMとして、マレーシアのEOEGプラント、中国のAA/AEプラントを完成、現在シンガポールエチレンのJV Deputy PDを担当中。

IV-1 プロジェクトマネジメントとナレッジマネジメント

9/4 13:10 融合を目指して

北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 教授 梅本 勝博

【セッション概要】 90年代半ば以降、世界中でナレッジマネジメントが大企業を中心に普及してきた。そのナレッジマネジメント運動のきっかけになったのは、野中郁次郎・竹内弘高の The Knowledge-Creating Company (邦訳『知識創造企業』)であり、その中の事例はほとんどが製品開発のプロジェクトである。また、ナレッジマネジメントを実践している企業の多くがプロジェクトベースの組織である。本セッションでは、ナレッジマネジメントとプロジェクトマネジメントの関係について論じ、両者の融合について展望する。

【講演者略歴】 1975年九州大学経済学部卒業。一橋大学助手を経て、1997年ジョージ・ワシントン大学文理学部大学院で公共政策論のPh.D.取得。現在、北陸先端科学技術大学院大学・知識科学研究科教授。専門はナレッジ・マネジメント、公共政策論。

IV-2 成功事例、反省事例に学ぶプロジェクトマネジメント

9/4 14:15

新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー技術開発部主任研究員 弓取 修二

【セッション概要】 NEDO技術開発機構は、1980年の発足以来、エネルギー・環境技術、産業技術の分野で多くの研究開発プロジェクトを実施してきた。プロジェクトでは、より望ましい成果を得るための効率的・効果的なマネジメントが求められるが、プロジェクト自体の目的や性質が異なる上、産学官の連携の下、様々な立場の人が参加する状況ではなかなか容易ではない。ここでは、平成15年度から開始された追跡調査結果等を基に、成功事例や反省事例に学び、プロジェクトマネジメントに関する共通認識を整理し、共有する試みについて概説する。

【講演者略歴】 2001年NEDO技術開発機構入構。企画調整部、環境調和型技術開発室、研究評価部の業務に従事。2006年より新エネルギー技術開発部の他、燃料電池・水素技術開発部、機械システム技術開発部、研究開発推進部を兼務し、蓄電池技術開発及び新エネルギーベンチャー技術革新事業を担当。

IV-3 デジタル技術が製造業の技術マネジメントを変える

9/4 15:35

薄型デジタルテレビの事例

日本ビクター株式会社 顧問 山口 南海夫

【セッション概要】 現在私達の周りで最もホットな話題のひとつが薄型デジタルテレビである。テレビは長い歴史をかけて今日の姿にまで発展してきた。それが今、デジタル技術と薄型ディスプレイデバイスが組み合わされた全く新しい世界に突入した。その変化は全世界同時に進行し、業界地図が大きく塗りかえられようとしている。また、技術マネジメントにも大きな変化が起きている。デジタル技術の広がりによりほかの分野でも類似した変化が起こる可能性がある。本講演では薄型デジタルテレビがもたらす変化と、大きく変わってきた技術マネジメントの変化について解説する。

【講演者略歴】 1969年松下電器産業(株)入社、以来カラーテレビの開発設計を中心に映像機器開発を担当。その後システムLSI開発センター所長として半導体開発、松下情報システム(株)社長としてソフト開発を担当。2001年日本ビクターに移籍。専務取締役兼技術開発本部長として技術経営を担当。2007年退任し現在顧問

IV-4 リスクマネジメントと組織学習によりプロジェクトを成功に導く

9/4 16:40

失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント

株式会社ニルソフトウェア シニアコンサルタント 河合 一夫



【セッション概要】 不確実性が高まる中でプロジェクトを成功させるためには、組織がプロジェクトのQCDに影響を与える変化を察知し素早く対応することが重要となる。プロジェクトの失敗の原因として、意思決定の遅さ、リスクへのまづい対応などがあげられる。プロジェクトを実施する中で組織が学び、成長することが大切である。本講演では、リスクマネジメント、意思決定マネジメント、組織学習の3つのプロセスをプロジェクトマネジメントにおける基本的なマネジメントとして、相互に効果的に関連したマネジメント手法を紹介する。

【講演者略歴】 株式会社ニルソフトウェア、シニアコンサルタント、PMI® PMP® 航空宇宙関連のソフトウェア開発を経た後、現職にてさまざまな業種のソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントを支援しながらPMツールの開発を行い、現在に至る。PMAJ、IEEE、PMI®、PM学会、電子情報通信学会、品質管理学会等所属

MS-1 PM実践力養成法

9/4 13:10 プロジェクト事例研修の進化への取り組み

富士通株式会社 PMプロフェッショナル推進室 木野 高史



【セッション概要】 PMの実践力は進行中のプロジェクトにおけるリスクや隠れた問題を察知し対症療法的処置にとどまらず、問題を根本的に解決する行動能力である。この能力は従来型のPM教育だけでは身につくものではない。我々はこの点についてPM育成方法の見直しを図りこれまでの一般的なケーススタディの研修スタイルから、より一歩深めた事例研修のスタイルを育成体系とともに確立した。そしてこれをPM候補生の育成に用い大きな成果を得た。事例研修のひとつの型としても適用可能な本研修手法を我々の研修事例と共に紹介する。

【講演者略歴】 1974年に富士通株式会社入社。ベーシックソフト開発を経て、2000年までキャリア系ネットワークシステムの開発に従事。SIアシスタンス本部にてプロフェッショナル制度の整備・普及やPM育成に携わる。2006年同本部PMプロフェッショナル推進室長。PMAJ会員、IT-SIGメンバ、PMP®、PMS

MS-2 フリーランスデザインオフィスGKとヤマハ発動機におけるPM

9/4 14:15

感性とダイナミズムに基づいたデザインプロジェクト事例

株式会社 GKダイナミックス 常務取締役 一条 厚

【セッション概要】 製造業におけるデザインの役割。工業デザイン領域でアイデンティティを生み出すエンジンは、オリジンと創造性にある。企業のグローバル展開や効率化の追求と共に、クリエイティブ性の達成にはフリーランスの提案力とその具現化が寄与している。外部デザイン組織と企業との世界でも稀有な50余年の相互尊重と独立性により、クリエイティブマネジメントの実現をめざしている。感性のデザインマネジメントによる、こだわりのカスタマーに応える、こだわりの美と技術の結晶のモノづくりを紐解いてみる。

【講演者略歴】 1978年東京芸術大学工芸科大学院修士課程終了。同年GKインダストリアルデザイン研究所入社。1981年USロスアンジェルスに転出。1983年より(株)GKダイナミックスにて、トランスポートを中心にさまざまな分野のデザインを手がける。

MS-3 中小企業における独自商品の事業開発におけるPM事例

9/4 15:35

PMアプローチで新規事業を市場展開

株式会社フュージョンナレッジネットワーク 代表取締役 小泉 誠二

【セッション概要】 中小製造業において独自商品を開発し市場で成功することは経営者の永年の目標である。しかしながらそれを成功させるには、商品の技術開発だけではなく、組織やノウハウの蓄積、パートナー開発など様々な障害を抱えているため、全社をあげて不転退の強力な意志で取り組まなければならない。本セッションでは下請けであった企業が独自ブランドの商品を市場で展開するために、プロジェクトマネジメントのフレームワークを使い、新たに市場に打って出た経営革新の事例を紹介する。

【講演者略歴】 1973年横河ヒューレット・パカード(株)入社、電子計測部門の営業やSEマネージャに従事。2002年(株)フュージョンナレッジネットワークを設立、経営・技術コンサルタントとして中小・ベンチャー企業支援を行っている。中小企業診断士、ITコーディネータ、技術士(電気電子部門)

MS-4 災害復旧システムプロジェクト

9/4 16:40

設計から構築・運用の作業プロセス

アトスオリジン株式会社 営業マーケティング本部 セールスマネージャー 百瀬 敏彦

【セッション概要】 BCP：事業継続計画の一部であるDR：災害復旧システムの事例である。本プロジェクトは、外資系金融機関に於ける発生可能性の高いビジネス拠点の災害を想定したDRシステムで、海外システムを含むDRシステムのデザインから構築、運用までの一連のプロセスを含め、プロジェクト管理、体制、文書体系、お客様とコミュニケーションや運用からテストまでについて具体的に紹介し説明する。サーポート・サービス・システム事例として、規模に関わらずDRプロジェクトを検討する際の考え方の参考として応用することができる。

【講演者略歴】 1976年横河ヒューレット・パカード入社、SE部門、教育事業およびアウトソーシング部門のビジネスマネージャー。2000年問題(Y2K)のHPの日本代表。他社のISO9001/ISMS/個人情報保護システムを構築。2006年アトスオリジンに入社しITプロジェクトのPMとして企画と実務を担当。

FI-1 イノベーションを具現化するプロジェクトマネジメント

9/4 13:10 ソニー銀行らしさの追求

ソニー銀行株式会社 営業企画部 マーケティング・オフィサー 河原塚 徹

【セッション概要】 2001年の開業以来「自立した個人のための資産運用銀行」を追求するソニー銀行は、2008年3月26日から、お客さまの日々の生活と金融商品を近づけるツールとして、ライフイベントサポーター『人生通帳』の提供を開始した。同サービスは、“アグリゲーション”の概念を、顧客リサーチで判明したお金に関する課題解決のソリューションとして採用・発展し、新世代の資産運用ツールに仕上げたものである。同サービスを事例にあげ、お客さまのニーズに即した企画・開発のノウハウについてその一端を述べたい。

【講演者略歴】 1993年早稲田大学第一文学部卒業。国内金融情報ベンダーで金融法人向けの営業・マーケティングを担当。2002年ソニー銀行株式会社入社。外貨関連商品、金融情報ツール、電子マネー、モバイルなどのプロジェクトを担当。2007年10月から現職。

FI-2 金融機関におけるシステムリスク管理とプロジェクトマネジメント

9/4 14:15

金融庁 監督局 銀行第一課

課長補佐 池田 宜睦 (変更になる場合がございます)

【セッション概要】 現在の金融機関は、多くのシステムを抱え、最早システム産業となっている。それに伴い、システムリスクが、経営に重大な影響を及ぼしている。金融庁は、金融機関が適切にシステムリスクを管理するべく、検査マニュアルや監督指針において、その管理態勢のあり方を示している。今回のセッションでは、「主要行等向けの総合的な監督指針」において、プロジェクトマネジメントの重要性について触れている部分を中心に、金融庁のシステムリスク管理についての考え方を同指針に沿って説明する。

【講演者略歴】 1996年一橋大学法学部卒。1999年東京大学大学院法学政治学研究所修了、金融監督庁(当時)入庁。証券取引等監視委員会事務局総務検査課、検査局総務課、監督局総務課、財務省近畿財務局理財部を経て、2006年7月金融庁総務企画局総務課課長補佐兼政策課。2007年7月から現職。

FI-3 金融システムに関わる、PMOの設置と品質管理活動のポイント

9/4 15:35

品質管理活動のポイント

株式会社日立製作所 情報・通信グループ 品質保証本部 金融システム品質保証部 担当部長 大石 晃裕

【セッション概要】 金融庁の金融検査マニュアルは、経営陣によるシステムリスク管理態勢の整備に係るPDCAサイクルの構築として、「システムリスク管理部門」の設置を挙げ、その役割と責任は、「システムリスクの認識・評価、モニタリングおよび検証・見直し」であるとしている。金融機関から情報システムの開発・運用を委託されるベンダーとしてPMO(プロジェクトマネジメント・オフィス)の設置のあり方と、「プロジェクトのモニタリング」「本番障害のPDCAサイクル」など品質管理活動のポイントについて解説する。

【講演者略歴】 1987年(株)日立製作所入社。銀行の勘定系オンラインシステムの検査を担当。その後、種々の銀行システムの品質保証業務に従事。2005年金融システム品質保証部 担当部長。銀行系システムの品質保証業務に従事。現在に至る。



1日目 セッション概要-III

PS-1 プロジェクト営業の七つの誤解
9/4 13:10 プロジェクト営業の問題点とその対策

株式会社PMコンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】 「PMがプロジェクトの成否を左右する」という発想から、プロジェクト・マネジャーに対するPMスキルの強化が強く叫ばれている。だが、はたしてプロジェクト成否の決定要素はそれだけなのか。現場では、受注段階で既に「負け戦」の様相を呈しているプロジェクトが多いのが実態だ。プロジェクトの失敗率を最小限にするためには、受注段階でのリスクの見極めが決め手となる。本セミナーでは、プロジェクトの発掘、ニーズの確定、提案の各プロセスでのリスク分析の重要性、さらに営業職に対するPM教育のポイントを解説する。

【講演者略歴】 UCバークレー校ビジネススクール卒 MBA取得。15年間で大規模プロジェクトを指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年にPMP®取得。97年(株)PMコンセプト設立。著書に「先制型プロジェクト・マネジメント」、「問題プロジェクトの火消し術」など。

PS-3 PM型MOT(技術経営)実践事例
9/4 15:35 ~新事業を創出するMOT人材育成~

株式会社アイさぼーと 取締役 研修・スクール事業本部長
松本 毅 (兼)大阪工業大学 客員教授 **C&P**

【セッション概要】 企業の価値を高めるためには、技術から如何にキャッシュフローを生み出すかが重要である。その為には、新事業開発の構想力や新製品・新技術の構想力を持つ研究者・技術者育成が大変肝要であり、「技術を戦略的にマネジメント出来る」戦略思考能力と「プロジェクトを成功に導くプロジェクトマネジメント型リーダーシップ」能力を高めることが重要である。(株)アイさぼーとでは、「MOTスクール」・「MOT研修」など実践的なMOT教育事業を全国で展開している。今回「MOT」実践事例と「MOT教育」の成果について紹介する。

【講演者略歴】 1981年大阪ガス入社。凍結粉砕機・薄膜型ガスセンサーの開発。技術系社員の採用・教育。2002年MOTスクール設立。2003年(株)アイさぼーと取締役に就任。2006年大阪工業大学客員教授に就任。経済産業省MOT評価・認定制度検討委員会委員。PMAJ関西普及委員会委員。

PS-2 「ストレスフリー指向開発」
9/4 14:15 品質確保とストレス軽減の両立

フェリカネットワークス株式会社 開発部 2課
統括課長 栗田 太郎

【セッション概要】 ソフトウェア開発業務においては、品質を確保するための取り組みとともに、責任に押しつぶされないプロジェクトやチームの運営について考えていく必要がある。本セッションでは、「おサイフケータイ」用ICチップファームウェアの開発プロジェクトにおける事例を交えながら、様々な工学や手法を組み合わせるにより多重開発構造を作り、安心・安全な、ソフトウェアの開発と、職場環境の構築を両立するための、「セーフティネットモデル」、「チームビルディング」、「ストレスフリー指向開発」などの考え方や取り組みについて紹介する。

【講演者略歴】 1971年生まれ。1996年から会社勤務、1999年からソニー株式会社。2004年よりフェリカネットワークス株式会社にてモバイルFeliCaの商用化および第2世代の開発に携わる。

PS-4 狩猟型プロジェクトマネジャーを育成する
9/4 16:40 心理学的視点とリーダー育成

アイシンク株式会社
代表取締役 & CEO 伊藤 健太郎

【セッション概要】 プロジェクトを成功できるプロジェクトマネジャーを育成するには、本人の意思だけでなく、実務での経験と適切なコーチングのサポート環境が必要である。しかし、現実にはリーダーシップスキルを磨く機会など組織が計画的に準備することは容易ではない。そこで、どのような視点と方法で結果を出せる(狩猟型と呼んでいます)プロジェクトマネジャーの育成を組織がサポートしていくのがいいのかを、心理学的視点、コーチング、シミュレーション型トレーニングなどの総合的な視点で考察していく。

【講演者略歴】 NKK(現JFE)で船舶用エンジンの製造、環境プラントのプロジェクトに従事後、PMに特化したサービスを提供するアイシンク株式会社設立。プロジェクト・マネジメント研修/コンサルティングを実施。著書に『プロマネはなぜチームを壊すのか』『プロジェクトはなぜ失敗するのか』等がある。

2日目 セッション概要-I

A-1 P2M標準プログラムマネジメントとPMI®標準
9/5 10:00 プログラムマネジメントとの相違と実用的な使い方

有限会社 経営組織研究所 代表取締役
PMAJ理事 渡辺 貢成 **P2M**

【セミナーの狙い】 P2M(Project & Program Management)が発表されて、それ以降PMI®標準のプログラムマネジメントが発行されました。残念ながら双方のスタンダードを知る人が少なく、どのような相違があるのかという質問を多く受けます。この相違をわかりやすく説明するのが本講座の狙いです。

【セミナーコンテンツ】 1. PMI®スタンダードとP2Mスタンダードによるプログラムマネジメントの相違を理解していただく、 2. それぞれの特徴を活かした使い方を学ぶ、 3. PMBOK®が実施しないP2Mにおける構想計画を理解していただく(ここが最も重要な点です)

【受講をお奨めする方】 PMP®, PMS、ITC取得者およびPMスタンダードに興味のある方

【講師略歴】 日揮(株)で石油、原子力プロジェクトのPM経験、日本有人宇宙システム(株)専務取締役(国際宇宙ステーション関連) JPMF初代事務局長、PM経験50年。現在 日本プロジェクトマネジメント協会理事、PMAJジャーナル、オンライン編集長、P2Mガイドブック改訂委員長で新版P2M標準ガイドブック改訂完了。著書:プロジェクトマネジャー自在氏の経験則、PM実践講座(芝 安曇書で出版)

B-1 感性コミュニケーション入門
9/5 10:00 潜在脳理解による組織力アップ講座

株式会社感性リサーチ 代表取締役
黒川 伊保子(日本感性工学会評議員)

私たちの脳は、脳の持ち主が知らない間に、97%もの認識を行っていると言われる。つまり、脳の持ち主が、意識して「感じている」「わかっている」と思っていることは、わずか3%に過ぎないということになる。潜在脳は、膨大な認識情報のうち、必要だと思われるものだけを顕在意識に伝えてくる。したがって、私たちが意識して知覚することは、既に潜在脳が取捨選別した結果であり、「ふと、目に留まった」と感じた商品も、既に潜在脳によって取捨選別されているのである。コミュニケーションにおいても同様と考えられる。

一方、脳には、潜在域にふと浮かぶ「脳の気分」があり、潜在脳を取捨選別は、この「脳の気分」にかなりの影響を受けている。このため、ヒトの「脳の気分」の傾向を知れば、市場の気持ちも、仲間や家族の気持ちも見通せることになる。脳の潜在域の出来事(感性)を知ることは、人生の達人になるコツでもあるのだ。本講では、(1)感性とは何か、(2)男女脳の違い、(3)感性トレンド(時代による大衆感性の違い)、(4)ことばの感性などの話題を中心に、違う脳の気分の持ち主たちが互いを敬愛しつつ共存するすべについて述べる。

【講師略歴】 1959年生れ。奈良女子大学理学部物理学科卒業後、(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリーにて13年間勤務。人工知能エンジニアに。その後、民間の研究所を経て、脳科学の見地から「市場の気分」を読み解く感性アナリストに。2003年、(株)感性リサーチを設立。代表取締役に就任。2004年に発表した世界初の語感分析法が注目を浴び、感性研究の第一人者となる。日本感性工学会評議員、倉敷芸術科学大学非常勤講師。著書に「日本語はなぜ美しいのか」(集英社新書)、「恋愛脳」(新潮文庫)など 公式サイトhttp://www.ihoko.com/

A-2 PMBOK®ガイド第3版概説
9/5 13:45 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメントの知識体系の解説

PMAJ研修第2部会 小林 守 **PMP**

【セミナーの狙い】 米国PMI®が発行するPMBOK®ガイド第3版は、『プロジェクトマネジメントの知識体系のうち、良い実績慣行と一般的に認められている部分を特定する』ことを目的としている。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者が全世界266,146人、PMBOK®第3版 1,029,156冊、PMBOK®の出版総合計(1996年版、2000年版、第3版) 2,464,808冊(2008年3月末)となっている。PMBOK®は、業界を問わないプロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードとして、広く認知されている。本講座では、PMBOK®ガイド第3版を概説し、受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てていただくことを目的としている。

【セミナーコンテンツ】 PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス群、44のプロセス、およびPMP 試験仕様の解説

【受講をお奨めする方】 1. PMP®資格受験を目指す方、 2. PMBOK®ガイド第3版を知りたい方、 3. ITC、P2M資格取得者の方でPMBOK®の概要を知りたい方。

【講師略歴】 茨城日立情報サービス(株)品質保証部 部長・1976年、日立エンジニアリング(株)〈現(株)日立情報処理ソリューションズ〉入社、プロセス制御用コンピュータによるアプリケーションシステムの開発に従事。主に海外火力プラント用、製造業/流通業の製造からロジスティクス用の制御・情報処理システムの開発に従事、さらに物理的セキュリティの指針認証システムのSEを担当。2007年8月茨城日立情報サービス(株)に転職し、現在に至る。PMAJ研修第2部会会員、PMP®、技術士(総合技術監理、経営工学、情報工学)他

B-2 職業としてのプロジェクト
9/5 13:45 プロジェクト・マネジャーの要件、プロジェクトに向く人、向かない人

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】 あなたはプロジェクトという仕事に向いているとお考えだろうか? そもそも、ある職業や役割に向いているとはどういうことか? 自分に向く職業や役割を見つけるプロセスや、向き不向きを判断する基準があるのか? あるとしたらそれはどんなものか? 良いリーダーに求められる条件とは? そして、良いプロジェクト・マネジャーに求められる条件とは? PMP®の要件の中心にある「インテグリティ」と、私のもうひとつの興味の対象である「運」に光を当てながら、こうしたポイントに一案を提示し、受講者のご批判を頂戴したい。

【セミナーコンテンツ】 1.枝分かれと剪定のプロセス 2.天職とは何か 3.リーダーの条件 4.プロジェクト・マネジャーの条件 5.プロジェクト——良い思い出ばかり

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに関わる方々、自分の経歴を見直してみたい方々

【講師略歴】 国際基督教大学大学院修了。京セラ、インテルなどに約20年間勤務後、PMの研修・コンサルティングを展開。プラネット(株)代表取締役、スマートビジョン(株)会長、慶応大学非常勤講師。著書に『PMプロジェクト・マネジメント』日本能率協会マネジメントセンター、『実践!プロジェクト・マネジメント』(津曲公二氏と共著)PHP研究所、『死ぬまでに達成すべき25の目標』(中西全二氏と共著)PHP研究所、訳書に『世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント』(香月秀文氏と共著)など。

カフェ・ド・eシンポ	
9月4日(木) 9:15~17:45 2F 平安	
出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
株式会社ニルソフトウェア	「xDTS」を用いた、さまざまなプロジェクト情報を有効に活用するためのソリューションのご提供。
ゴール・システム・コンサルティング株式会社	CCPM通信教育講座、およびその他商品・サービス(コンサルティング、研修、セミナー等)の紹介。
公立大学 産業技術大学院大学	①大学院で取り組んでいるPM教育(PBLを中心として) ②本学の紹介 ③本学オープンインスティテュート事業の紹介。
株式会社ユーフィット	How To PMの「見える化」! よろず相談承ります。
アイシンク株式会社	PM研修やリーダーシップについて効果的な取り組み等のご紹介。
日揮情報システム株式会社	PJ管理システム、エンジニア・製造業向け「EPMソリューション」・IT業界向け「Smart-PMO」
株式会社スコラ・コンサルト	自律的なチームを育てるマネジメントをはじめとする、〈スコラ式〉企業風土改革コンサルティングのご紹介。
プラネット株式会社	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介します。公開コースは、わが国最多の実績です。

C-1 実践的プロジェクトマネジメントオフィス 9/5 10:00 プロジェクトマネジメント組織成熟度向上のためのPMO

アルテミスインターナショナル株式会社
代表取締役社長 仲村 薫


【セミナーの狙い】 組織としてプロジェクトマネジメントに取り組み、プロジェクトマネジメントの組織成熟度を上げ、プロジェクトの適切な推進によって組織目標を達成することを模索している企業が増加している。それを支えるPMO（プロジェクトマネジメントオフィス）に何を期待すべきか、またどのように推進すべきかを議論する。

【セミナーコンテンツ】 プロジェクトマネジメントの組織成熟度を考慮したPMOの活動とその効果について、事例を交えて紹介する。その後、ワークショップ形式で、グループごとに各社のPMOが抱える問題や今後の推進について討議し、相互に発表しながら講師を交えた全体討議を行う。

【受講をお奨めする方】
実際にPMOのメンバーとして活動されている方々
PMOの活動改善に携わる方々
プロジェクトマネジャーの立場から、PMOに期待される方々

【講師略歴】 アルテミスインターナショナル(株)にてプロジェクトマネジメントのコンサルティングを行っている。
PMOの研究をライフワークとしており、2冊の書籍を出版。
東京工業大学博士課程にて効果的PMOについての研究を行っている。
PM学会理事

D-1 ITプロジェクトのなぜなぜ5回(階) 9/5 10:00 成功のために組織の支援を得る5つの階層

株式会社 FFC 共通技術センター
PMO推進室 担当部長 小原 由紀夫 

【セミナーの狙い】 トヨタにおける改善の中で原因を見つける手法として「なぜなぜ5回」が使われている。1日目の発表のようにソフトウェア開発においても「なぜなぜ5回」を用いて真因を求める有効性が発表されている。真因を見つけた後、真因を解決する対策には、プロジェクト内で解決できる対策と、組織からの支援が必要になる対策がある。プロジェクトマネジャーはプロジェクト内で解決できる対策を推進すると同時に、組織の支援を得るためにステークホルダーと交渉する。本セミナーではITプロジェクトにおいて成功のために必要な組織の支援を導く「なぜなぜ5回」の5つの階層を紹介する。さらに、プロジェクトへの支援が組織としての再発防止であることを説明する交渉ストーリーを学ぶことをねらいとする。

【セミナーコンテンツ】 1.問題の識別と影響 2.なぜなぜ5回(階)の背景と方法 3.プロジェクト成功への支援交渉 4.TPSとPMBOK®の対応

【受講をお奨めする方】 1.IT関連のプロジェクトマネジャー、または、リーダー 2.IT関連のラインの部長 3.TPSに興味がある方

【講師略歴】 1983年富士通入社後、出向、転籍を経て現職。20年間、グローバル企業に成長する日本の電機・自動車の工場基幹システム構築プロジェクトにベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。世界一の品質を産み出すステークホルダーからTPSなどを実践的に体得した。中国・韓国オフショア開発で国際感覚を身につけ、米国クイテンスマネジメント社認定講師としてグローバルで成功するPMメソッドを普及している。PMP®、PMAJ会員、PMAJ-IT-SIG「TPSIに学ぶPM」WG主査。

C-2 『生産WBS』による個別設計生産のマネジメント革新 9/5 13:45 SCMからEPMへのパラダイムシフト

株式会社テクナレッジ・ジャパン
代表取締役 林 謙三


【セミナーの狙い】 生産機械、産業機械、等々生産財を生産する製造業は、モノづくり大国「日本」を支える屋台骨であり、日本国内に永続的に残る産業の一つであり、その多くは個別設計生産(Manufacture of Engineered Products)の生産形態にある。この個別設計生産のマネジメントに、プロジェクトマネジメントの基本概念であるWBSの考え方を敷衍した『生産WBS』という新たな考え方を導入し、生産マネジメントのイノベーションを誘発させたい。本セミナーでは、参加者の方々た『生産WBS』の可能性についてアグレッシブな討議を行いたい。

【セミナーコンテンツ】 セミナーの主旨に沿い、説明は簡潔にし、討議の時間を多く設けたい。内容としては、1. WBSの捉え方(PMBOK®との差異)、2. 個別設計生産の特徴、3. 生産WBSの特徴、4. 生産WBSの活用について説明し、その後実り有る討議を行いたい。

【受講をお奨めする方】 1. 『生産WBS』に興味のある方、
2. 個別設計生産型製造業の方、3. 研究開発型企業の方

【講師略歴】 1969年日揮株式会社入社、国内外の工場建設プロジェクトを中心に各種プロジェクトを経験するとともに、プロジェクトマネジメントシステム(PMS)の構築・運用にも従事。
1995年に独立し、株式会社テクナレッジ・ジャパンを設立して現在に至る。
技術士(経営工学部門) 著書：生産WBS入門(オーム社、2007年)

D-2 元気の素を測り、分析から行う効果的なチームビルディング 9/5 13:45 モティベーションの構造化モデル(PS調査)とプロジェクト診断

PS研究会:松尾谷 徹(法政大),宮下 圭一(株)富士通ASOL),
松田 浩一(富士通(株)),石田 誉幸(株)CIJ  ワークショップ

【セミナーの狙い】 「測れないものは制御できない」この基本原理は、プロジェクトやチームの人的能力についても成り立つ。集団における仕事意欲は、高い/低いと言う単純なものではなく、複数の要因とその相互作用からなる複雑システムであり、「褒める」など画一的な対策には限界がある。今回のセミナーは、仕事意欲を高める手段ではなく、どんな症状においてどんな手段を選択するのか?あるいは、選択してはいけないのか?について、PS研究会における研究と実践を紹介する。測る方法は、2001年にJISAで行ったPS調査から継続的に進化した「PS調査バージョン5」(財団法人日科技連提供)であり、分析モデルは、PMAJジャーナル4月号(第31号)で紹介した「人的資源の動的解析とリスク予知」を用い、診断と対策の選択を行う方法について紹介する。

【セミナーコンテンツ】 システムシンキングによる人的資源の動的モデル、PS調査/リアルタイムPS調査、モチベーションドライバー、プロジェクトの元気度診断、モチベーション対策の選択方法、実践の方法

【受講をお奨めする方】 メンバーの仕事意欲に問題を感じているチームリーダー、PM、PMO、プロジェクト支援の方

【講師略歴】 PS研究会:プロジェクトなど多様な人員構成(ダイバーシティ)下における仕事意欲を研究、実践する任意団体。今回の発表は、その中のタスクMM4が担当する。MM4は、第一線で活躍するPMが中心となり、元気を診断するPS診断の研究を行っている。
■松尾谷 徹: PS研究会代表、法政大兼任講師、博士
■宮下 圭一: (株)富士通「ITソリューション」(FASOL)ソリューションビジネス本部統括部長
■松田 浩一: MM4代表 富士通 ネットワークソリューション事業本部統括部長
■石田 誉幸: (株)CIJ SIビジネス事業部副事業部長

E-1 巧みなビジネス・プレゼンテーションのコツを学ぶ 9/5 10:00 ステークホルダーは、いかなる話に耳を傾け、心を傾けてくれるのか

モアグレイス株式会社
代表取締役 村松 かすみ

【セミナーの狙い】 「仕事ができる」「人望が厚い」「信頼できる」等の評価をされている人は、一方的に「伝える」ではなく、相手の立場に立って話の出来る「伝わる」話し方の技術をもっている。プロジェクトを進める時、または日常業務の中で必要なビジネス・プレゼンテーションのコツとは? 私達は、いかなる話に耳を傾け、心が動かされるのか…。一方的に「伝える」プレゼンテーションから、相手に「伝わる」プレゼンテーションのポイントをご紹介します。

【セミナーコンテンツ】 Part 1 プロジェクトのフェーズとプレゼンテーション Part 2 プレゼンテーションで押さえるべき基本 Part 3 「伝える」から「伝わる」プレゼンテーションへ

【受講をお奨めする方】 1.プロジェクト・マネジャー、プロジェクト・チームのメンバー、プロジェクトの依頼者(顧客)の方々、
2.日常の業務をもっと効果的にしたいと考えている方々、
3.アカウントビリティ(説明責任)の能力を高めたいと考えている方々

【講師略歴】 日本体育大学女子短期大学卒業。富士通(株)に6年間勤務。富士通時代に参加したビジネス・プレゼンテーション研修をきっかけに、プロのインストラクターを生涯の仕事とすることを決意し、教育研修会社に転職する。2008年モアグレイス(株)を設立、代表取締役役に就任。プラネット(株)シニア・インストラクター。慶應義塾大学にてコミュニケーション理論を研究中。厚生労働省YES-プログラム認定試験ビジネス・キャリア・エントリー試験問題作成委員。著書に「できる 使えるプレゼン術」(JMAM)。

F-1 ポートフォリオマネジメント実践法 9/5 10:00 IT投資価値の最大化をどう実現?

株式会社ピーエム・アライメント
取締役 中谷 英雄

【セミナーの狙い】 大手金融機関システム開発では、年間数十～数百億円のIT投資が行われている。ITと金融ビジネスの結びつきが強まっている中、IT投資の性格が、従来の効率化を目標としたものから、より戦略的な効果を求めるものにシフトしてきている。一方で、従来の金融機関IT投資は、個別のプロジェクト単位で管理され、全体最適の観点からビジネス戦略との整合性を評価してきていなかった。IT部門への目が厳しくなる中、CIOの説明責任向上が求められてきている。まず、大手金融機関数社のポートフォリオマネジメントの具体的事例を取り上げ、課題、解決方法を探る。その中で、IT投資価値を最大化するために、組織、マネジメント、評価基準等はどうあるべきかを、上位管理者の立場から検証する。次に、情報システム部門を仮想として、国際的に認められているマネジメント標準の活用方法について分析を加える。

【セミナーコンテンツ】 1.ポートフォリオマネジメントの具体的事例 2.解決の糸口 3.国際標準の活用 4.理想的なポートフォリオの仕組み

【受講をお奨めする方】 IT投資管理、プロジェクトポートフォリオマネジメントに興味がある方

【講師略歴】 大手ITベンダー、信託銀行のシステム部門を経てシステム開発、プロジェクトマネジメントに従事。その後、現在の会社で、金融機関情報システム部門を対象に、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、リスクマネジメントのコンサルを務める。PMAJ会員、PMI東京PFM研究会会員

E-2 「人を育てる」ことは嫌いですか? 9/5 13:45 ~部下や後輩を育成し、自分の仕事を向上させる~

グローバルナレッジネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 田中 淳子

【セミナーの狙い】 新卒の大量採用時代となり、若手の人口比率が高くなっている組織も多い。従来は数年かけて育てた若手を、近年は早期に立ち上げ、できるだけ早い段階で独り立ちさせなければならぬという課題を現場では抱えている。ところが、久々に多くの若手社員を迎えた職場では若手を教えるノウハウの蓄積が少なく、マネージャやベテラン社員が戸惑っている。さらに、「自分が若いころ、誰も育ててくれなかった」という心理的抵抗や「後輩の育成に関わる余裕がない」という物理的な制約もある。このセッションでは、若手をどう育てればよいか、人育ての考え方や誰もが身近なことから始められる人育てに関わるコミュニケーションのノウハウを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 ●若手育成での課題 ●若手はどう感じているか ●「人育て」は「自分育て」 ●自分が育った過程を思い出してみる ●今日からできること *座学ではなく、途中、何度か隣の方とお話しするワークを交えた参加型のセミナーです。

【受講をお奨めする方】 ●部下や後輩の育成や成長支援に興味のある方 ●部下や後輩をどう育てれば良いか、他の参加者と考えや体験を共有したい方

【講師略歴】 1986年日本デジタルイクイップメント入社、IT技術研修に従事。91年ヒューマンスキル分野の研修事業を立ち上げる。96年グローバルナレッジネットワーク入社後ヒューマンスキル分野の人材育成に専念。これまでに「日経ITプロフェッショナル」「日経SYSTEMS」「日経コンピュータ」誌でコミュニケーションに関する連載を担当。著書「速効!ISEのためのコミュニケーション実践塾」「速効!ISEのための部下と後輩を育てる20のテクニック」(共に日経BP社)「はじめての後輩指導~知っておきたい育て方30のルール」(日本経団連出版)

F-2 現場力を高めるプロジェクトマネジメント 9/5 13:45 経営力を高める現場力の強化

株式会社プロジェクトマネジメントオフィス代表 好川 哲人
有限会社経営組織研究所代表 渡辺 貢成(ゲスト講師)

【セミナーの狙い】 プロジェクトマネジメントの導入効果として注目されはじめている経営の現場力の向上について、多くの分野でのプロジェクトマネジメントの経験を持つ識者をゲスト講師(渡辺貢成氏、PMAJ理事)に迎え、現場力のイメージ、現場力の必要性についてインプットを受けるとともに一般的なイメージを理解する。それを念頭において、自分たちの組織においては、どのような現場力が求められるかを検討し、また、それを実現するプロジェクトマネジメントのポイントを把握する。

【セミナーコンテンツ】 1. 講師紹介(講師の現場力についての見識の背景の説明) 2. 「現場力とは何か」、「なぜ現場力なのか」についてゲスト講師から基本的な考え方を示す(50分)
3. 自分たちが考える現場力の重要性とあるべき姿

(1) グループ内自己紹介 (2) 議論 ●各グループが考える現場力とはどのようなものか ●現場力を高めるにはどのようなプロジェクトマネジメントが必要か (3) 発表と議論 (4) 講評とまとめ

【受講をお奨めする方】 プロジェクトマネジャー、プロジェクトマネージャーの上司(部長、課長)、PMOスタッフ

【講師略歴】 ■好川 哲人: 株式会社プロジェクトマネジメントオフィス代表。PMStyle代表。コンサルタントとして、新規事業開発、研究開発、商品開発、SIなどのプロジェクトを成功に導く。2万人が購読するメルマガ「プロジェクトマネジャー養成マガジン」を発行
■渡辺 貢成: 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)理事、PMAJジャーナル、PMAJオンライン(ウェブ誌)編集長、PMAJ P2M研究会代表 PM歴50年:化学プラント、石油プラント、原子力関連プラント建設、国際宇宙ステーションプログラム関連

G-1 なぜ、失敗から学べないのか？

9/5 10:00 「成長する組織」をつくるには

株式会社ティ奥斯
代表取締役 落合 敏明



【セミナーの狙い】 問題・失敗プロジェクトが世に溢れている。しかし、その内容を冷静に分析してみると、問題・失敗の決定的な要因には実はそれほど多くのバリエーションがあるわけではない。言葉を変えるならば、同じような要因で何度も問題・失敗を繰り返しているということになる。多くの組織が、品質管理等のプロセス強化・プロジェクト事例分析・マネジメント教育等に取り組んでいる。しかし、プロセスはプロセスにすぎず、教育は教育にすぎない。ビジネスの現場でメンバーひとりひとりの現実の具体的な行動にプロセスや教育が活かされなければ、当然結果には結びつかない。当講座では、過去（失敗、成功を問わず）を教訓化し、組織・個人の能力を着実に高めるための考え方・方法論について解説する。

【セミナーコンテンツ】 ビジネス能力を高めるために組織・個人に不可欠な要素とは何か／ビジネスの成功を左右する「実践力」とは、日常の仕事の中でどう鍛えられるのか／過去の経験を徹底的に掘り下げ、教訓として着実に次に活かすための具体的手法とポイント

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに限らず、組織・チームの問題に関心を持つ全ての方

【講師略歴】 マネジャーとして数多くの大規模プロジェクトに参加。コンサルタントとしては、プロジェクトマネジメント関連、ナレッジマネジメント関連を中心に活躍している。大手メーカー、大手ITベンダーなどで数多くの実績をもち、現場そして実践を重視したコンサルティング活動で第一線に立ち続けている。(社)全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタントICMCI(マネジメントコンサルタント世界機構)認定コンサルタント 著書：「研修が教えないビジネス能力の磨き方」日刊工業新聞社 など

H-1 海外プロジェクトのRisk Management

9/5 10:00 見積段階・遂行段階のリスク管理

日揮株式会社 第一プロジェクト本部
本部長スタッフ 大益 康市

【セミナーの狙い】 海外プロジェクトで納期と採算を確保することは容易なことではない。最近ではプロジェクトの大型化、資機材費・人件費の高騰、人材不足、韓国・中国企業の台頭などEPC業界の環境は更に厳しさを増している。海外プロジェクトは何故難しいのか、多くの失敗例から学ぶのは「技術」より「プロジェクト運営の難しさ」であろう。「プロジェクト運営」のリスクを見積時にどう想像しトラブル予防策を練るのか、プロジェクト遂行段階でどう対処するのか、具体的な事例を参考に考えてみたい。今後海外進出を考えているIT企業の方々にも参考にしたい。

【セミナーコンテンツ】
●EPCビジネスの構造(リスクの根幹)：(ITビジネスとの比較)
●最近のEPCビジネスの課題
●海外プロジェクトの見積段階と遂行段階の問題と対策(リスク管理)
●紛争への対応：顧客との紛争：納期延長、追加費用請求クレーム
●プロジェクト運営上の典型的なトラブルから見るリスク管理

【受講をお奨めする方】 海外プロジェクトに関わるプロジェクト、建設、機材調達、営業・法務部門関係者。ならびに今後海外展開を志向するIT企業の方々。

【講師略歴】 慶應義塾大学法学部卒業日揮に入社(法務部に配属)。契約業務と海外現場駐在経験を経て海外プロジェクト部門へ異動。主に円滑なプロジェクト運営の支援とともに顧客・Subcontractorとの紛争処理交渉などを担当。業務本部プロジェクトコーディネーション部長等を経て現在第一プロジェクト本部(旧国際事業本部)本部長室にて現職。エンジニアリング振興協会のPM基礎講座の講師を担当。

G-2 現場力のプロジェクトマネジメント

9/5 13:45 日本組織の現場力を活かしたプロジェクトマネジメントの在り方を考える

マイクロソフト株式会社 ビジネスプロダクティビティソリューション本部
エグゼクティブアドバイザー 浦 正樹

【セミナーの狙い】 ビジネスの現場では米国型のマネジメントスタイルや価値観を鵜呑みにする日本組織の風潮が問われているが、プロジェクトマネジメントに関しても例外ではない。日本の組織には、「現場力」を原動力に脈々と受け継がれるプロジェクト運営の知恵があった。しかし、高度化するプロジェクトや厳しい事業環境に直面する中、組織的な視点が欠如しがちな従来のやり方だけでは限界がある。従来型でもダメなら、上意下達のベストプラクティスを単に真似てもダメ。「実践力」の領域で、人に着目した仕組みを考える必要がでてきた。今回は、「可視化」、「考え行動する個人」、「会話と納得」の3つをキーワードに据え、日本の組織が目指すべきプロジェクトマネジメントの在り方について考える。

【セミナーコンテンツ】 上位下達型のベストプラクティス、ベストプラクティスと現場のギャップ、プロジェクトマネジメントにおける現場力とは何か、日本型プロジェクトマネジメントのスケルトン

【受講をお奨めする方】 PMの仕組み導入を推進されている方、PMの仕組みが定着しなかった経験をお持ちの方、PMO、プロジェクトマネージャー、プロジェクトリーダー

【講師略歴】 1984年横浜国立大学工学部機械工学科卒。いすゞ自動車、大塚商会、アルテミスインターナショナル、ブライズウォーターハウスクーパース コンサルタント(現IBMビジネスコンサルティングサービス)を経て、2003年にマイクロソフトに入社。製造業を中心に、プロジェクトマネジメントの導入・立ち上げの経験をもつ。著書に「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(翔泳社)がある。

H-2 ITプロジェクトおけるリスク管理の勘どころ

9/5 13:45 EVMを始めとして発注者の為のパフォーマンス・リスク管理を中心に

村田経営研究所
代表 村田 正憲

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトでは“物作り”だけに徹しては不十分だと知ってはいても、プロジェクト・パフォーマンス、バリュー・プロポジション(Value Proposition)の改善方策が分からない、そして手が回らないのが実情だろう。またEVM(出来高管理)を導入しても、発祥の地の欧米式契約形態には即していても国内では勝手が異なることを踏まえずに表面的な予実分析に終始する傾向を否めず、EVM管理タスク工数のバリュー・プロポジションすら疑問視せざるを得ない。そこで発注者側PMやPMO責任者がEVM関連報告のどこに着目してパフォーマンス・リスク管理を実践すべきかを、発注者及びベンダー(受注者)の双方の立場から解説しつつ、各々が最適化する勘どころを浮き彫りにする。

【セミナーコンテンツ】 ITプロジェクトにおけるリスク・マネジメント、そしてパフォーマンス・リスク管理とは？ EVMによるプロジェクトQCDリスク・マネジメントのポイントとは？ 発注者側PM、PMO責任者、及びCIOが果たすべき責任と役割とは？

【受講をお奨めする方】 プロジェクト・マネージャー、特にユーザー企業のPMO責任者、CIO、企業経営者

【講師略歴】 (株)村田経営研究所代表。IT関連を中心とした15年以上のマネジメント・コンサルティング経験を有し、代表な実績例としては海外エンジニアリング部門におけるPMO要員、グローバル企業における米国及びインドを含む国際的Y2K対応プログラム統括責任者兼PMOマネージャー、公共機関における業務・システム最適化計画策定及びPMO支援、等。主な著書には「入門 上級システムアドミニストレータ」(リックテレコム社、共著)、等。PMAJ会員、国際CIO学会会員、等。

K コンフリクト・マネジメント

9/5 10:00 多様化する職場での協調的問題解決

株式会社オイコス
メンター 鈴木 有香



【セミナーの狙い】 多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。また、Win-Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通して学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 コンフリクト・マネジメントストラテジーとその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループ・ディスカッションを含む。

【受講をお奨めする方】 基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々。

注：午前の講座内容は、PMシンポジウム2007での内容と重複します。

【講師略歴】 早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ(米国)にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修を一部上場企業(外資系、日系)を中心に担当。著書に「コンフリクト・マネジメント入門」、文部省検定教科書「On Air」(共著)など。

M 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション

9/5 10:00 ダイバーシティとコミュニケーション

松本屋 松本 潤二



【セミナーの狙い】 プロジェクト運営に限らずどのような場合においても、対人コミュニケーション能力の向上は直接的ではないかもしれないが、確実に多くの問題を解決へと導く。特に仕事上のコミュニケーションは必要最小限とされることが多く、それにより伝達の漏れや齟齬が多く発生する。本セミナーではコミュニケーションの質を向上させることを目的とし、認知や心理の理論的側面に併せ、実際に自らの体で演習を行い相互補完することでより深い学習をする。

【セミナーコンテンツ】 コミュニケーションにおけるヒトの認知、行動、学習などの過程を元に、講師による講義とグループや全体でのディスカッション、少人数による対話練習と観察などを行う。特にディスカッションや対話練習では仮定の題材によるロールプレーではなく、参加者の実体験による内容を用いて進める。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトにかかわる人とのコミュニケーションを改善し深めたい方。また、プロジェクトファシリテーションに興味がある方。受講内容を自分自身で実践するつもりがない方はご遠慮ください。

【講師略歴】 日本コーチ協会東京チャプター代表、独立行政法人国立環境研究所CIO補佐補助、松本屋(個人事業主)。主にITシステム開発の現場で、アジャイルなプロジェクト運営とチーム作りを通してプロジェクトファシリテーションを実践。プロジェクトチームへのアジャイルプロセスの導入支援、プロジェクトファシリテータの育成、チームやマネージャーへのコーチングおよびバーソナルコーチ。アジャイルプロセスと、コミュニケーション改善のための研修講師やワークショップのリード。

L 「ふりかえり」によるITプロジェクトカイゼンワークショップ

9/5 10:00 ふりかえりと見える化の関連

株式会社 永和システムマネジメント コンサルティングセンター
センター長 天野 勝



【セミナーの狙い】 変化の激しいビジネスを支えるITシステムを構築するには、プロジェクトはその変化に振り回されるのではなく、変化に追従する必要がある。プロジェクトが環境に適合して自ら変化する「カイゼン」や、そのカイゼンを推し進めるための「現場力向上」が求められている。本ワークショップでは、ITプロジェクトにカイゼンを導入するための「ふりかえり」という考え方を紹介し、具体的な手法としての「KPT」を実習を通して、体験から学んでいただくものである。

【セミナーコンテンツ】 ふりかえりの手順、KPT、カイゼンの原則、解決指向型と原因追求型、ふりかえりを促進するツール、ふりかえりと見える化

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネージャー、およびチームリーダー。「現場力向上」に関心のある方。昨年受講された方も再度受講しやすいうように、新しいコンテンツを追加し、ふりかえりと見える化の関連についても触れます。

【講師略歴】 株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。オブジェクト倶楽部 事務局長、日本XPユーザグループ 企画スタッフ、アジャイルプロセス協議会 運営委員などを務める。著書：「eXtreme Programmingテスト技法 - xUnitではじめる実践XPプログラミング」、「リール開発の本質」、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」、その他、雑誌への寄稿多数。

